



# Propel

ソフトウェアバージョン: 2.20.p1

## リリースノート

ドキュメントリリース日: 2016年9月 (英語版)

ソフトウェアリリース日: 2016年9月



**Hewlett Packard**  
Enterprise

## ご注意

### 保証

Hewlett Packard Enterprise製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、Hewlett Packard Enterpriseはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

### 権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、Hewlett Packard Enterpriseからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

### 著作権について

© 2014 - 2016 Hewlett Packard Enterprise Development LP

### 商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

## ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hpe.com/>

このサイトを利用するには、HPE Passportに登録してサインインする必要があります。HPE Passport IDに登録するには、HPEソフトウェアサポートサイトで **[Register]** をクリックするか、HPE Passportログインページで **[Create an Account]** をクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPEの営業担当にお問い合わせください。

## サポート

次のHPEソフトウェアサポートサイトを参照してください。<https://softwaresupport.hpe.com>

このサイトでは、HPEのお客様窓口のほか、HPEソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPEソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPEソフトウェアサポートWebサイトのサポート範囲は次のとおりです。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPEサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HPE Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HPE Passport IDに登録するには、HPEサポートサイトで **[Register]** をクリックするか、HPE Passportログインページで **[Create an account]** をクリックします。

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hpe.com/web/software-support/access-levels>

## 目次

はじめに .....	4
本バージョン .....	4
ドキュメント .....	5
本リリースの変更内容 .....	5
インストール要件 .....	6
インストール手順 .....	6
カスタマイズ .....	8
HPE SMアンロードファイルの検証 .....	9
検証手順 .....	10
リストア手順 .....	11
PostgreSQLデータベースのリストア .....	11
HPE Propelコンポーネントのリストア .....	12
本リリースで解決された問題 .....	14
本リリースで解決されたカスタマー問題 .....	16
既知の問題、制限事項、回避方法 .....	25
よくある質問 .....	30
ドキュメントのフィードバックの送信 .....	31

## はじめに

このドキュメントには、HPE Propel 2.20 パッチ1リリース (HPE Propel 2.20.p1) に関する次の情報が記載されています。

- 「[本リリースの変更内容](#)」(5ページ) - HPE Propel 2.20リリース以降の変更
- 「[インストール要件](#)」(6ページ) - 1つのHPE Propel VMおよびクラスター化されたHPE Propel VMの要件
- 「[インストール手順](#)」(6ページ) - HPE Propel 2.20.p1の詳細なインストール手順
- 「[HPE SMアンロードファイルの検証](#)」(9ページ) - HPE Service Managerと統合されたHPE Propel VMの場合のみ必要
- 「[検証手順](#)」(10ページ) - 2.20.p1パッチインストールの検証手順
- 「[リストア手順](#)」(11ページ) - 元のHPE Propel 2.20 VMIにロールバックする必要がある場合の手順
- 「[本リリースで解決された問題](#)」(14ページ) - HPE Propel 2.20リリース以降に修正されたすべての問題
- 「[本リリースで解決されたカスタマー問題](#)」(16ページ) - HPE Propel 2.20リリース以降に修正されたすべてのカスタマー問題
- 「[既知の問題、制限事項、回避方法](#)」(25ページ) - HPE Propel 2.20.p1の既知のすべての問題とその回避方法
- 「[よくある質問](#)」(30ページ) - HPE Propel 2.20.p1リリースに関する一般的な質問とその答え

## 本バージョン

HPE Propelは、複数のサービスプロバイダーでの単一のユーザーエクスペリエンス、容易な統合、迅速な導入を実現可能な、サービスブローカー向けの製品です。統合製品の詳細については、『HPE Propel System and Software Support Matrix』を参照してください。

HPE Propel環境が優れたパフォーマンスと安定性を発揮できるように、次のタスクを完了してからインストールを開始してください。

- 各コンポーネント製品でサポートされるハードウェアとソフトウェアが、インストールの最小要件を満たしていることを確認します。
- 関連パッチとパッチリリースのホットフィックスが、コンポーネント製品に適用済みであることを確認します。
- リリースノートで、各コンポーネント製品に追加の変更内容や制限事項がないか確認します。

## ドキュメント

HPE Propelのドキュメントは、HPEソフトウェアサポートWebサイト (<https://softwaresupport.hpe.com/group/softwaresupport>) から入手できます

このサイトを利用するには、HPE Passportへのサインインまたは登録が必要です。ページ上部の検索機能を使用すると、ドキュメント、ホワイトペーパーなどの情報ソースを検索できます。カスタマーサポートサイトの使用方法の詳細については、次のURLにアクセスしてください。

[https://softwaresupport.hpe.com/documents/10180/14684/HP\\_Software\\_Customer\\_Support\\_Handbook/](https://softwaresupport.hpe.com/documents/10180/14684/HP_Software_Customer_Support_Handbook/)

HPE Propelのすべてのドキュメントの詳細と更新については、HPE Propelドキュメントリストを参照してください。

HPEでは、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントに関するコメントは、[Propel\\_IJ@hpe.com](mailto:Propel_IJ@hpe.com)までお寄せください。

## 本リリースの変更内容

HPE Propel 2.20.p1リリースでは、次の変更が実施されています。

- **分散型HPE Propel** – 分散型HPE Propelクラスター化で、無償のオープンソースのAnsible Playbookテクノロジーを使用して、複数のノードを構成することができます。分散型HPE Propelの詳細については、『2.20.p1 Distributed HPE Propel Deployment Guide』を参照してください。
- **テーマのカスタマイズ** – 各HPE Propel組織に、固有のカラーテーマを適用することができます。カラースキームは、IDアプリケーションの**[カスタマイズ]**ビューのthemeName属性で指定されます。たとえば、propel-dark-themeを指定すると、スタートパッドとHPE Propelポータルで暗い背景のカラースキームが使用されます。
- **スウェーデン語翻訳** – ユーザーインターフェイス (UI) がスウェーデン語に翻訳されました。これはブラウザの言語設定で制御されます。

**注:** オンラインヘルプはスウェーデン語に翻訳されていません。ブラウザの言語をスウェーデン語に設定すると、オンラインヘルプは英語で表示されます。

これはスウェーデン語翻訳を含む最初のHPE Propelリリースであり、一部のテキストがまだ翻訳されていません。

# インストール要件

HPE Propel 2.20.p1パッチリリースは、既存のHPE Propel 2.20仮想マシン (VM) のみにインストールできません。

**注:** 1つのクラスター内のすべてのHPE Propel 2.20 VMが、同じパッチレベルを持つ必要があります。1つのVMを2.20.p1に更新する場合、クラスター内のすべてのVMを更新する必要があります。

HPE Propelバージョン2.10からバージョン2.20.p1に移行する場合は、HPEサポートに支援を依頼してください。

# インストール手順

**注:** 次の手順に記載されているHPE Propelのインストールファイルとデータベースバックアップファイルの保存場所は、別の場所に変更することもできます。HPE Propel 2.20.p1パッチがインストールされたら、これらのファイルは削除してかまいません。

HPE Propel 2.20.p1パッチリリースをインストールするには、HPE Propel 2.20 VMIに対して次の手順を実行します。

1. HPEでは、vSphereクライアントで、元のHPE Propel 2.20 VMのスナップショットを取得しておくことを強くお勧めします(このスナップショットは、2.20.p1のインストールプロセスを再実行する必要がある場合に、元のHPE Propel 2.20インスタンスに戻すために必要になります)。vSphereクライアントで次の手順を実行して、元のHPE Propel 2.20 VMのスナップショットを取得します。
  - a. HPE Propel 2.20 VMをシャットダウンします。
  - b. 現在のHPE Propel 2.20 VMのスナップショットを取得します。
  - c. HPE Propel 2.20 VMを起動します。
2. SSHを使用して、HPE Propel 2.20 VMIにrootでログインします。
3. パッチインストールファイルをHPE Propel 2.20 VM上に配置します。
  - a. `# mkdir /tmp/2.20.p1`
  - b. パッチインストール用の.tgzファイルを、/tmp/2.20.p1ディレクトリにダウンロードします。
4. オプション、PostgreSQLデータベースを手動でバックアップする場合のみ: 次のコマンドを使用して、PostgreSQLデータベースをバックアップします。

**注:** ステップ1で説明したように、HPEでは、2.20 VMをリストアする必要がある場合に備えて、vSphereクライアントでHPE Propel 2.20 VMのスナップショットを取得しておくことを強くお勧めします。このステップの手順は、vSphereクライアントでVMスナップショットを作成できないために、PostgreSQLデータベースを手動でバックアップする場合のために記述されています。PostgreSQLデータベースを手動でリストアする場合、この後のステップ7で作成するHPE Propelコンポーネントのバックアップもリストアする必要があります。PostgreSQLデータベースおよびPropelコンポーネントの手動リストアの詳細については、「[リストア手順](#)」(11ページ)を参照してください。

- a. HPE Propelサービスを停止して、すべてのデータベースアクティビティを停止します。

```
# propel stop
```

- b. すべてのHPE Propel PostgreSQLデータベースをバックアップします。

```
# mkdir /opt/hp/propel-postgresql-backup
# cd /opt/hp/propel-postgresql-backup
# sudo -u postgres pg_dumpall > postgres_backup_<Date-of-DB-Backup>
```

5. NodeJS 4.5.0にアップグレードします。インターネットにアクセス可能かどうかに応じて、次の手順を実行します。

- a. インターネットにアクセス可能な場合:

```
# yum remove nodejs
# curl -sL https://rpm.nodesource.com/setup_4.x | bash -
# yum -y install nodejs-4.5.0 npm
```

- b. インターネットにアクセス不可能な場合:

- i. [https://rpm.nodesource.com/pub\\_4.x/el7/x86\\_64/nodejs-4.5.0-1nodesource.el7.centos.x86\\_64.rpm](https://rpm.nodesource.com/pub_4.x/el7/x86_64/nodejs-4.5.0-1nodesource.el7.centos.x86_64.rpm)からrpmを入手します。

- ii. rpmをHPE Propel VMの/tmpディレクトリにコピーします。

- iii. HPE Propel VMからNodeJSを削除します。

```
# yum remove nodejs
```

- iv. 新しいrpmをHPE Propel VMの/tmpディレクトリから手動でインストールします。

```
# rpm -ivh /tmp/nodejs-4.5.0-1nodesource.el7.centos.x86_64.rpm
```

6. NodeJSがバージョン4.5.0であることを確認します。

```
# node --version
```

7. 次のコマンドを実行して、HPE Propel 2.20.p1パッチをインストールします。ここで、Filename.tgz

は、ステップ3でダウンロードしたパッチインストールファイルの名前に置き換えます。

```
# cd /tmp/2.20.p1
# tar -xvzf Filename.tgz
# ./patch.sh
```

**注:** HPE Propelがデフォルトの場所 (/opt/hp/propel)にインストールされていない場合、patch.shパッチインストーラーの引数として--propel-homeを使用することにより、Propelインストールディレクトリのデフォルト値を変更することができます。例:

```
# ./patch.sh --propel-home <カスタムの場所>
```

デフォルトでは、HPE Propel 2.20.p1パッチインストーラーは、2.20の既存ディレクトリのバックアップを次の場所に作成します。/opt/hp/propel-backup

パッチインストーラーでサポートされるその他のオプションには、次のものがあります。

- --tmp — 一時ディレクトリの場所を変更します。デフォルトの場所は/tmp/propel-installです。
- --propel-backup — HPE Propelのバックアップディレクトリの場所を変更します。デフォルトの場所は/opt/hp/propel-backupです。
- --nobackup — 元のディレクトリの圧縮コピーをバックアップディレクトリに保存しません。すでにVMのスナップショットを取得してある場合に使用します。
- --norestart — パッチが適用された後のHPE Propelサービスの自動再起動を無効にするために、次のコマンドを呼び出します。./patch.sh --norestart

元のHPE Propel 2.20ディレクトリの構成は維持されます。patch.shスクリプトはHPE Propelサービスを再起動し、"installation complete"メッセージが表示されたら、HPE Propel 2.20.p1インスタンスは動作して検証可能な状態になっています。

## カスタマイズ

パッチインストーラーは、構成ファイルをリストアしようとします。ただし、HPE Propel 2.20インスタンスがカスタマイズされている場合、たとえばHPE Service Managerのカスタマイズされたバージョンと組み合わせて使用するためにFree Markerテンプレートをカスタマイズしてある場合などは、パッチインストールで作成されたバックアップディレクトリから、これらのファイルを手動でリストアする必要があります。元のファイルは、/opt/hp/propel-backupディレクトリにある.tgzファイルに含まれています。ファイル名には、インストールが実行された日付と時刻が付加されています。

**注:** 2.20.p1に含まれる変更されたファイルに、カスタマイズをマージすることが必要な場合があります。

## HPE SMアンロードファイルの検証

HPE PropelシステムがHPE Service Manager (HPE SM) の9.50以外のバージョンと統合されている場合、次のアンロードファイルを適用する必要があります。サプライヤーに対するHPE SMアンロードファイルのステータスは、**診断**アプリケーションの**[構成チェック]**ビューで確認できます。

次に示すアンロードファイルの場所は、/opt/hp/propel/sx/contentStorageというパスを基準にしています。

### sm-base/sm

- SXAdapterDB93x.unl - HPE SM 9.3x専用。このアンロードファイルを最初に適用する必要があります。
- SXAdapterChecker.unl
- SXBaseDB.unl
- SXBaseExtAccess.unl
- SxEntityChangesSeqV2.unl
- SupportSingleIDOL.unl - IDOLをサポートするHPE SM 9.41専用。

### sm-case-exchange/sm

- SXCaseExchange.unl
- SXPDCaseExchange.unl - プロセスデザイナーを含むHPE SM専用。
- SXExtRefTable.unl - HPE SM 9.33以前専用。

### sm-r2f/sm

- SXLineItemApproval93x.unlまたはSXLineItemApproval94x.unl - SXLineItemApproval93x.unlはHPE SM 9.40より前、SXLineItemApproval94x.unlはHPE SM

9.40以降に適用します。

- SXR2FDB.unl
- SXR2FExtAccess.unl
- SXBaseExtAccess.unl
- SXR2F94xExtAccess.unl - SXR2FExtAccess.unlを補完するもので、HPE SM 9.40以降専用です。

## 検証手順

HPE Propel 2.20.p1パッチが正常にインストールされたかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. HPE Propel 2.20.p1 VMIにadminユーザーでログインします。
2. アバター(右上)をクリックして、[バージョン情報]を選択します。
3. バージョンが2.20.p1であることを確認します。

**注:** 運用システムとして使用する前に、HPE Propel 2.20.p1インストールをテストします。

## リストア手順

このセクションでは、元のHPE Propel 2.20 VMを手動でリストアする手順を示します(HPE Propel 2.20.p1パッチリリースのインストール後)。

**ヒント:** 元のHPE Propel 2.20 VMIに戻すための推奨される方法は、vSphereクライアントでHPE Propel 2.20 VMのスナップショットをリストアすることです。ただし、事前にスナップショットを取得してあることが前提となります。それが不可能な場合は、次に示す手順で、PostgreSQLデータベースと個々のコンポーネントディレクトリをすべて手動でリストアします。

元のHPE Propel 2.20 VMを手動でリストアするには、次の2つのステップが必要です。

1. [「PostgreSQLデータベースのリストア」\(11ページ\)](#)
2. [「HPE Propelコンポーネントのリストア」\(12ページ\)](#)

## PostgreSQLデータベースのリストア

HPE PropelのPostgreSQLデータベース全体のダンプをリストアするには、次のコマンドを実行します。

1. postgresユーザーでDBサーバーにログインし、テンプレート以外のアクティブなデータベースをすべて取得し、各dropコマンドをdd.sqlファイルに出力します。

```
# cd /opt/hp/propel-postgresql-backup
# sudo -u postgres psql -c "select 'drop database '||datname||';'from pg_
database where datistemplate=false" >> dd.sql
```

2. dd.sqlファイルを編集し、最初の2行と最後の1行を削除して、dropコマンドだけを残します。
3. dd.sqlファイルを使用して、すべてのデータベースを削除します。

```
# sudo -u postgres psql -d postgres -f dd.sql
```

**注:** PostgreSQL DBが削除されないのは無視します。

4. データベースダンプ全体をリストアします。

```
# sudo -u postgres psql -f postgres_backup_<Date-of-DB-Backup>
```

**注:** ユーザーとロールは変化しません。これらは削除されておらず、警告とエラーが表示されます。こ

れらを削除する場合は (postgresユーザーを除いて)、次のコマンドとdu.sql SQLスクリプトを使用します。

```
# sudo -u postgres psql -c "select 'DROP USER '||username||';'from pg_user where username<>'postgres'" >> du.sql
```

## HPE Propelコンポーネントのリストア

HPE Propel 2.20.p1パッチをアンインストールしてHPE Propel VMを元の2.20の状態に戻すには、次のコマンドを実行します。

1. NodeJS 4.4.4にダウングレードします。インターネットにアクセス可能かどうかに応じて、次の手順を実行します。

- a. インターネットにアクセス可能な場合:

```
# yum downgrade nodejs-4.4.4
```

- b. インターネットにアクセス不可能な場合:

- i. [https://rpm.nodesource.com/pub\\_4.x/el7/x86\\_64/nodejs-4.4.4-1nodesource.el7.centos.x86\\_64.rpm](https://rpm.nodesource.com/pub_4.x/el7/x86_64/nodejs-4.4.4-1nodesource.el7.centos.x86_64.rpm)からrpmを入手します。

- ii. rpmをHPE Propel VMの/tmpディレクトリにコピーします。

- iii. HPE Propel VMからNodeJSを削除します。

```
# yum remove nodejs
```

- iv. 新しいrpmをHPE Propel VMの/tmpディレクトリから手動でインストールします。

```
# rpm -ivh /tmp/nodejs-4.4.4-1nodesource.el7.centos.x86_64.rpm
```

2. HPE Propelアンインストーラーを実行します。

```
# cd /opt/hp/propel-backup
```

```
# ./patch.sh --uninstall
```

**注:** パッチバックアップ用の代替パスを--propel-backupオプションで指定していない場合は、バックアップは/opt/hp/propel-backupに保存されます。

作成されるバックアップの他に、最新バージョンのpatch.shスクリプトも同じ場所にコピーされます。

このコマンドは、2.20.p1コンポーネントをすべて元の2.20バージョンに戻し、アンインストールの完了後にHPE Propelを再起動します。

アンインストーラーは、一時フォルダー (TMP変数) とバックアップ場所 (PROPEL\_BACKUP変数) に十分な領域があるかどうかを確認します。十分な空き領域がない場合は、インストールは続行されず、理由を示す具体的なメッセージが表示されます。

"There is not enough disk space available in.." といったメッセージが表示された場合、有効な対処方法としては、領域を解放するか、TMP変数 (-tmp引数) またはPROPEL\_BACKUP変数 (--propel-backup引数) を変更します。例:

```
# ./patch.sh --uninstall --tmp <Temporary_Location> --propel-backup <Location_of_Propel_Backup>
```

## 本リリースで解決された問題

このHPE Propel 2.20.p1パッチリリースでは、次の問題が修正されています。

### CR QCCR1D218300 – タイムアウト後にChromeのページを更新するのに間違っただイレクトが使用されていた

adminユーザーが「カタログ接続」ページを表示していて、セッションがタイムアウトした場合、再度ログインしたときにHPE Propelによって「サプライヤー」ページにリダイレクトされます。

### CR QCCR1D219242 – IDMIに20個のグループしか表示されない

IDMIに20個のグループしか表示されません。

### CR QCCR1D219970 – 要求ステータスの「失敗 - 再試行あり」と「失敗 - 再試行なし」を区別する

HPE PropelがService Managerへの要求の送信に失敗した場合 (HPE SMがオフラインの場合など)、何回か再試行が行われてから、最終的に失敗と判断されます。Propelが再試行中なのか再試行を停止したのかを、エンドユーザーが識別する方法が必要です。

Propelは、/opt/hp/propel/sx/WEB-INF/sx.propertiesの設定に基づいて自動的に再試行を行います。失敗した要求は、手動再試行リストに追加されます。[[サプライヤーの詳細](#)]ビューの[[診断](#)]タブには、未送信の要求の失敗した同期ステータスが表示されます。orgadminは、[[サプライヤーの詳細](#)]ビューの[[手動再試行](#)]タブで、[[再試行](#)]ボタンを使用して要求の同期を手動で再試行することができます。再試行する要求のリストをフィルターして、1つまたは複数の要求を再試行することができます。送信を実行すると、自動再試行が最初から繰り返されます。再び失敗した場合は、失敗した要求は手動再試行リストにもう一度追加されます。

### CR QCCR1D222551 – [スタートパッド][VPAT/WCAG - アクセシビリティ] フレームの識別とナビゲーションを容易にするため、フレームにテキストのタイトルを付ける必要がある

フレームでは、各フレームの内容を表すため、title属性を追加する必要があります。VPAT 1194.22(i) およびWCAG 4.1を参照してください。

### CR QCCR1D225562 – 国際化: SMのzh-cn/HE環境で作成された新規サービスを集約履歴で参照できない

[サービスカタログ] → [管理] → [ローカライズされたカタログアイテム] メニューツリーを使用して、HPE SMのカタログアイテムを中国語にローカライズした場合、変更内容がHPE Propelに正しく集約されません。

#### **CR QCCR1D226598 – ADユーザー名の太文字/小文字がSMの太文字/小文字と一致しない場合にユーザーが承認を参照できない**

大文字のログインIDを使用するオペレーターは「Approvals」を参照できません。小文字のログインIDを使用するオペレーターは「approvals」を参照できます。

#### **CR QCCR1D228478 – オーダーの詳細: サービスインスタンスの最大件数が10件**

オーダーのレビュー時には、オーダーの結果として提供された関連するサービスが表示されます。大きなオーダー(11アイテム以上)の場合、対応するサービスの一部しか表示されません。合計数は画面の左側に表示されますが(「数量」というラベル)、右下にある[サービスインスタンス]ビューには最大10件までしかサービスが表示されません。

#### **CR QCCR1D228548 – 移行: 2.10からのアップグレード後にオーダーの詳細を表示できない**

HPE Propel 2.10から2.20へのアップグレード後に、ユーザーがオーダーの詳細を参照できません。

#### **CR QCCR1D228906 – LDAP構成のグループメンバー属性に関するカスタマーの誤解**

LDAP構成のグループメンバー属性の「memberOf」を使用すると、グループメンバーの計算が間違った結果になり、どのLDAPグループにもメンバーが存在しないこととなります。

## 本リリースで解決されたカスタマー問題

HPE Propel 2.20.p1では、次のカスタマー問題が解決されています。

### 解決されたカスタマー問題

CR	問題	解決策
QCCR1D231175	オーダーの詳細に現在表示される [すべてのアイテムをカートに追加] ボタンは混乱を招きます。ユーザーがその機能を誤解して、重複した要求を作成する可能性があります。使いやすさの改善が必要です。	次の変更が行われました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべてのアイテムをカートに追加] を [新規オーダー] に変更 (オーダーの詳細)</li> <li>• [新規オーダー (カートに追加)] を [新規オーダー] に変更 ([アイテム] メニュー)</li> <li>• [アイテムをカートに追加] を [新規オーダー] に変更 (オーダーアイテムの詳細)</li> <li>• ボタンの色をセカンダリに変更</li> </ul>
QCCR1D231053	登録者ローダーで、分散型 HPE Propel セットアップの HPE Propel ノード間のグループの並列処理が可能である必要があります。	IdM 登録者ローダーが拡張され、複数のグループを異なる HPE Propel ノードによって同時に処理できるようになりました。
QCCR1D231012	HPE Service Manager で要求を直接クローズするかまたは取り消した後で、承認受信トレイを表示すると、保留中の承認が HPE Propel でオープン/保留中ステータスのままになっています。	HPE Service Manager で要求を直接クローズするかまたは取り消すと、HPE Service Manager は、対応する承認をすべて削除します。これを実現するために、HPE SX は、HPE Service Manager でクローズされるか取り消された要求に関して、state=approved を HPE Propel に送信します。その副作用として、承認を必要としない要求の場合でも、state=approved が HPE Propel に送信されます。この副作用は、HPE Service Manager SRC にも存在しません。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D231007	<p>2.10.p1-HF7を適用した後、IdMユーザー名とHPE Service ManagerのオペレーターIDの大文字/小文字が一致しない場合、サービス要求をクローズすることができません(「アクセスが拒否されました」)。</p> <p>クローズコメントを指定した後、[アクセスが拒否されました] ウィンドウが表示されます。IdMユーザー名とHPE SMのオペレーター名が一致する場合は、サポート要求を正常にクローズすることができます。</p>	IdMユーザー名とHPE Service ManagerのオペレーターIDの大文字/小文字が一致しない場合でも、サポート要求をHPE Propelからクローズすることができるようになりました。
QCCR1D231001	登録者ローダーがデータベースに対してCPUパフォーマンスの問題を起こさないように、インデックスを作成する必要があります。	インデックスが作成されます。登録者ローダーは約12倍高速に動作します。
QCCR1D231000	管理コンソールで管理/更新される組織のロゴが、ホームページからグローバル検索を使用した場合に、結果ページ(左上隅)に表示されません。ポップアップウィンドウの左上隅には、引き続き緑のデフォルトのHPE Propelロゴが表示されます。	ユニバーサル検索でカスタムロゴを表示します(存在する場合)。
QCCR1D230796	HPE Service Managerが大文字/小文字を区別しない場合、IdMユーザー名とHPE SMのオペレーターIDの大文字/小文字が一致しないと、サービス要求コメントを追加できない場合があります。	IdMユーザー名とHPE SMのオペレーターIDの大文字/小文字が一致しない場合でも、HPE Propelのサービス要求にコメントを追加できるようになりました。
QCCR1D230792	オーダーのリスト表示では、ユーザー名の大文字/小文字を区別しない必要があります。	HPE Propelは、アクセスの検証時に大文字/小文字を区別しなくなったので、オーダーのリスト表示は正常に動作します。
QCCR1D220366	<p>HPE Service Managerのオペレーター名と、IdMに記録されているユーザー名(LDAPから得られたもの)の大文字/小文字が一致しない場合、ユーザーはHPE Propelでサポート要求の詳細を開くことができません。</p> <p>この場合、ユーザーはHPE Propelでリスト内のすべてのサービス要求を見ることができますが、サービス要求をオープンしようとする、「アクセスが拒否されました」エラーが発生します。</p>	HPE Propelは、アクセスの検証の際に大文字/小文字を区別しなくなったので、サービス要求のリストからサービス要求をオープンする際に、詳細が正しく表示されるようになりました。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D230935	受信エラー: 「予期しないエラー: モデルを保存 できませんでした」	サイズの制限のために保存に失敗すると、SVGなしでもう一度試行が行われ、それも失敗した場合は、正しいエラーメッセージが表示されません。
QCCR1D230885	添付ファイルの合計サイズに異なる制限 (デフォルトは20 MB) を設定しようとした場合、添付ファイルの合計サイズの新しい制限が考慮されません。	『HPE Propel 2.2x Administration Guide』の添付ファイルサイズの制限の変更に関する記述が検証されました。
QCCR1D230808	返されるユーザーの最大数が20です。大規模な組織には似た名前のユーザーが多数いることが考えられるので、もっと多くの結果をリストに返す必要があります。	ユーザー選択メニューに「無限スクロール」が加わりました。検索では最初に20個の結果が表示され、最後までスクロールすると、一致が見つからなくなるまで、さらに20個のグループが取得されて、リストの末尾に追加されます。
QCCR1D230769	IdMの計算済みグループに対する「除外」フィルターの機能が追加されました。	「除外」フィルターを実現する新しいAPIが追加されました。
QCCR1D230765	登録者ローダーが低速すぎ、多数の不要なデータベース接続を作成します。	データベース接続がプールされるようになったため、接続数がプールサイズに制限されるようになりました。
QCCR1D230365	計算済みグループによるカタログアクセス制御は、ユーザーがHPE Propelにログインしている場合しか動作しません。ユーザーがHPE Propelにログインしていない場合、計算済みグループによるアクセス制御は、代理要求 (RoB) モードでは動作しません。	IdM登録者ローダーが改良され、構成変更の際に、各ユーザーに関するより多くの情報をLDAPから取得できるようになりました。これにより、まだログオンしていないユーザーに対しても、代理要求 (RoB) 偽装が動作するようになります。
QCCR1D229962	シングルサインオンが有効にされている場合、ログインのたびに新しいユーザーがHPE Propel DBIに作成されます (kz0bqm、kz0bqm1、kz0bqm2など)。	構成が更新されました。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D229942	新しいユーザーが作成されるときに、IdMの abstract_userテーブルの属性 'created_date' が入力されません。	created_dateが設定されるようになりました。
QCCR1D229917	[代理要求] (RoB) ボタンが散発的に消失します。	代理要求 (RoB) に計算済みグループのサポートを追加しました。
QCCR1D229851	<p>テストシナリオは次のようなものとします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. HPE Propelにログインします。</li> <li>2. 右上のメニューからサポート要求を選択します。</li> <li>3. リストからサポートチケットを1つオープンします。</li> </ol> <p>負荷テストが200人のユーザーによるサポートチケットの検索をシミュレートすると、HPE Propelの動作が極端に遅くなります。検索に5分以上かかります。次のSQLステートメントが最も時間を取っているようです。</p> <pre>/* RequestDao.search */ SELECT jdoc -&gt; 'summary' AS summary FROM request WHERE cast(jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'timestamp' AS int) &gt;= ? AND cast(jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'name' as varchar) ILIKE ? and (cast(jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'state' as varchar) =? or cast(jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'state' as varchar) =? or cast(jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'state' as varchar) =? or cast(jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'state' as varchar) =?) and cast(jdoc -&gt;&gt; 'type' as varchar) =? AND cast(jdoc-&gt; 'summary'-&gt;&gt;'tenant' as varchar) = 'CONSUMER' AND jsonb_contains_key(jdoc - &gt; 'visibleToUsers', 'test1') ORDER BY cast (jdoc -&gt; 'summary' -&gt;&gt; 'timestamp' AS int) desc LIMIT ? OFFSET ?</pre> <p>jsonb_contains_key関数で時間がかかっていると思われる。これにより、テーブル全体のスキャンが行われます。</p>	ユーザーに表示されるものを別の関係テーブルに移動し、適切なインデックスを導入することで修正しました。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D229626	分散型 HPE Propel を使用する場合、ナレッジ記事が表示されません。	分散型 HPE Propel で、HPE Service Manager から得られるナレッジ記事のリスト表示/検索/表示が正しくできるようになりました。
QCCR1D230084	代理要求 (RoB) オーダーを実行した後で、代理要求 (RoB) を終了しても、偽装がログインしているユーザーにリセットされません。	代理要求 (RoB) モードの開始時と終了時の両方で、動的フォーム内のキャッシュされた値をクリアします。
QCCR1D230151	代理要求 (RoB) ターゲットユーザーをプルダウンメニューで見つけることができません。	代理要求 (RoB) ターゲットユーザーがセッション全体に対してキャッシュされないようにシステムを変更しました。
QCCR1D229961	代理要求 (RoB) 偽装リストの検索のパフォーマンス向上を、氏名の検索にまで拡張する必要があります。	代理要求 (RoB) 検索ボックスで、氏名と電子メールの検索のパフォーマンスが向上しました。
QCCR1D229960	代理要求 (RoB) 偽装リストの検索が、氏名に対して動作する必要があります。	ShopUI が改良され、代理要求 (RoB) 偽装リストの検索が氏名と電子メールの両方に対して動作するようになりました。ユーザーID は検索されなくなりました。
QCCR1D229982	オプションですべてのユーザーID を強制的に大文字にするように、IDM を更新する必要があります。これは、すべてのユーザーID が大文字である場合に、HPE Propel が HPE Service Manager システムと連携して動作できるようにするためです。	IdM の LDAP 登録者ロードの際に、すべてのユーザーID を強制的に大文字にするカスタム (非表示) フラグが、IdMI に作成されました。
QCCR1D229978	/opt/hp/propel/sx/WEB-INF/sx.properties に次のエントリが不足しています。  sx.http.separatedClientKeepAlive=120000  2.20-HF1 をインストールした後、このエントリを手動で追加する必要があります。	適切なデフォルトが存在し、手動構成が不要になりました。
QCCR1D230057	保存済みのデータベース表現グループから、関連ユーザーを削除することができません。	グループからメンバーを簡単に削除できるようになりました。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D229957	セッションをアクティブに使用していても、30分で期限切れになります。	ユーザーがアクティブに使用している間は、セッションが期限切れになることはなくなりました。
QCCR1D229632	大規模なLDAPグループのHPE Propelへのロードが低速です。	LDAPユーザー情報のインデックスを改良しました。
QCCR1D229457	要求の同期で、長いコメントが処理できません。	1024文字よりも長いコメントは、1024文字に切り詰められます。
QCCR1D229042	偽装グループのユーザー数が約6000の場合に、偽装ターゲットの取得に約20秒かかります。	LDAPのユーザー情報にインデックスが付けられました。
QCCR1D228972	HPE Propelのショッピング/オーダー手順によって、HPE Service Managerにセッションリークの問題が生じます。	HPE Service ManagerとHPE Propelの間の接続を有効に維持しておくことで、セッションリークはHPE Service Exchangeで解決されます。問題は、HPE Propel側で、HPE Service Manager側よりも早く接続が閉じられてしまうことでした。タイムアウトが合わせられたので、新しい接続を開く必要性は減りました。
QCCR1D229819	偽装にグループを追加する際のメッセージにスペルの誤りがあります。  "Select an impersonation target group to associate with nnnnn. You may choose to have a group impersonate itself, this will allow users in that group to impersonate other users within that same group."  "assciate" はスペルの誤りであり、"associate" に修正する必要があります。	スペルは修正されました。
QCCR1D229642	分散型HPE Propelで散発的に起きるデータベースのフェールオーバーを解決するステップを、開発されたスクリプトに追加する必要があります。	この問題は解決済みです。
QCCR1D229644	分散型HPE Propelでカテゴリ名がUUIDである問題を解決するための手動構成を、開発されたスクリプトに追加する必要があります。	ロードバランサーから証明書をコピーして、証明書をインポートします。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D229640	分散型 HPE Propel で pgpool 接続が TIME_WAIT 状態になる問題を解決するための手動構成を、開発されたスクリプトに追加する必要があります。	この問題を解決するために、分散型 HPE Propel の動作に関するアーキテクチャー上の変更が、2.20.p1 の一部として行われました。
QCCR1D229369	動的オプション値のデータソース - 'on behalf' ID が HPE SX からアダプターに渡されません。	動的オプションは、正しいユーザー ID によってサプライヤーから取得されます。動的オプションはユーザーによって異なる場合があります。たとえば、ユーザーが HPE CSA から VM をオーダーする場合、一部のマシン属性が要求者によって異なる可能性があります。修正では、要求の受信者が常に動的オプションに関して考慮されるようになり、代理要求 (RoB) でアクターが 2 人または 3 人の場合も、オーダーが正常に動作するようになりました。
QCCR1D229297	SM DB 検索で、受信者に固有の情報 (場所、コンピューターなど) を問い合わせるために、"requested.for" の値が使用されます。DB 検索は引き続き受信者 (代理要求) でなく送信者を使用しています。	ショップと検索のユーザー情報を取得する API が改良されました。
QCCR1D229029	「エラー」という赤の警告メッセージが、フォームの上部でなく、[今すぐオーダー]/[カートに追加] ボタンの下に表示されます。	これは改良されました。
QCCR1D228294	ビジネスルールに 20 番目のグループを追加する際に、リストに残っているのが保存されたように見えますが、このページから出て戻ってくると、リストの末尾の最後のグループが消えています。 関連する問題: QCCR1D219242	ユーザーは、1 つの組織に 20 個を超えるグループを追加できるようになりました。
QCCR1D228384	メニューをソートする際に、カタログアイテムが同じ言語で表示されません。	サービス、サポート、ユニバーサル検索がすべて修正され、ソートは正しく動作するようになりました。

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D227523	<p>一部のカタログアイテムの詳細テキストを表示する際に、ハイパーリンクがある付近でテキストの形式が正しくありません。角括弧が表示され、"...more" が追加されることもあります。[詳細表示]をクリックしてテキストを展開すると、角括弧は消え、テキストはハイパーリンクになります。また、埋め込まれたハイパーリンクのテキストが重複して表示されます。この動作は、テキストが特定のサイズに達して、[詳細表示]が表示されると起きるようになります。</p>	<p>一部のカタログアイテムの詳細テキストを表示する際に、ハイパーリンクがある付近でテキストが正しい形式で表示されるようになりました。</p>
QCCR1D226463	<p>大文字のログインIDを使用するオペレーターは「Approvals」を参照できません。小文字のログインIDを使用するオペレーターは「approvals」を参照できます。</p> <p>問題は、一部のユーザーのADの sAMAccountNameが大文字に設定されていることにあります。そのようなユーザーがログインすると、IdMのabstract_userの "name" 属性が大文字で保存されます。HPE SMでは、オペレーターは通常小文字で記録されます。</p> <p>そのような大文字のユーザーがHPE Propelで HPE SMの承認を与える場合、"visibletouser" に承認者名が小文字で記述されているため、そのユーザーには承認が見えません。</p>	<p>承認でのユーザー名の比較はすべて大文字/小文字を区別せずに行われるようになったので、ユーザー名の大文字/小文字は無関係になりました。大文字のログインIDを持つユーザーも、小文字のログインIDを持つユーザーと同様に、自分の承認を見ることができます。</p>

## 解決されたカスタマー問題 (続き)

CR	問題	解決策
QCCR1D219970	<p>HPE PropelがHPE Service Managerへの要求の送信に失敗した場合 (HPE SMがオフラインの場合など)、何回か再試行が行われてから、最終的に失敗と判断されます。HPE Propelが再試行中なのか再試行を停止したのかを、エンドユーザーが識別する方法が必要です。</p>	<p>Propelは、 /opt/hp/propel/sx/WEB-INF/sx.propertiesの設定に基づいて自動的に再試行を行います。失敗した要求は、手動再試行リストに追加されます。[サプライヤーの詳細]ビューの[診断]タブには、未送信の要求の失敗した同期ステータスが表示されます。orgadminは、[サプライヤーの詳細]ビューの[手動再試行]タブで、[再試行]ボタンを使用して要求の同期を手動で再試行することができます。再試行する要求のリストをフィルターして、1つまたは複数の要求を再試行することができます。送信を実行すると、自動再試行が最初から繰り返されます。再び失敗した場合は、失敗した要求は手動再試行リストにもう一度追加されます。</p> <p>再試行リスト内の失敗した要求をキャンセルするには、[手動再試行]ビューの[終了]ボタンを使用します。終了すると、失敗した要求が再試行リストから削除され、要求はHPE Propelで失敗として表示されます。</p>

## 既知の問題、制限事項、回避方法

### CR QCCR1D204702 - Propelアプライアンス内のパスワードに一貫性がない

問題	HPE Propelのインストールを使用する際に、一部のデフォルトパスワードは更新されていますが、一部のデフォルトパスワードは以前のリリースと同じです。ただし、他のデフォルトキーストアおよびデータベースのパスワードの多くは、1.xxリリースと同じままです。
原因	製品の不具合です。
回避方法	更新後のデフォルトパスワードが使用できない場合は、旧リリースのパスワードを使用してください。

### CR QCCR1D216261 - Propel 2.01: KM外部リンクの問題/ Chrome

問題	KM記事中の外部リンクをクリックしてもページがロードされない場合があります。
原因	製品の不具合です。
回避方法	次のいずれかの回避方法を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Ctrlキーを押しながらかlickして、リンクを新しいタブで開きます。</li> <li>• コンテンツのHTMLリンク(アンカータグ)で「target="_blank"」属性を使用します。</li> </ul>

### CR QCCR1D219535 - サードパーティ証明書の適用後のrabbitmq.configが正しくない

問題	サードパーティ証明書の適用後のrabbitmq証明書が正しくありません。
原因	製品の不具合です。

**CR QCCR1D219535 - サードパーティ証明書の適用後のrabbitmq.configが正しくない (続き)**

回避方法	<p>/etc/rabbitmq/rabbitmq.configファイルを手動で編集し、次のような正しい構成にします。</p> <pre>[ {rabbit, [   {tcp_listeners, []},   {ssl_listeners, [5671]},   {ssl_options, [     {cacertfile, "/opt/hp/propel/security/CA.crt"},     {certfile, "/opt/hp/propel/security/propel_host.crt"},     {keyfile, "/opt/hp/propel/security/propel_host.key.rsa"},     {verify, verify_none}}} ]}, {rabbitmq_management, [   {listener, [     {port, 15672},     {ssl, true},     {ssl_opts, [       {cacertfile, "/opt/hp/propel/security/CA.crt"},       {certfile, "/opt/hp/propel/security/propel_host.crt"},       {keyfile, "/opt/hp/propel/security/propel_host.key.rsa"}     ]}   ]} ]} ] ]</pre>
------	---

**CR QCCR1D222013 - 国際化:中国語でのSMとPropelの間の言語コードの違いにより文字列がローカライズされない**

問題	ユーザーが中国語でHPE PropelのUIを表示し、新しいサポート要求を入力するか、既存のサポート要求を表示すると、[緊急度]と[通知方法]の値がローカライズされずに表示されます。これらの値は英語で表示されます。
原因	HPE Service Managerサーバーでは、内部データベースに保存する中国語に、ブラウザで送信される言語コード (zh-CN) と異なるコード (zh-Hans) を使用しています。
回避方法	回避方法はありません。ユーザーには英語の値が表示されます。

**CR QCCR1D226996 - [BH] [RSS] - メインフィード画像にブロックノイズが発生する**

問題	大画面では、RSSフィードで表示される画像にブロックノイズが生じているように見ることがあります。
原因	RSSソースフィード。
回避方法	大きな画像をサポートしているRSSフィードを使用します。

**CR QCCR1D227710 - 大きいHTTPヘッダーによりエンドユーザーに見える多数の問題が発生する**

問題	<p>ユーザーが多数のLDAPグループに含まれる場合、HTTPヘッダーが許容されるスペースを超え、ユーザーに対して次のような問題が発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• カタログの参照でグリーンスクリーンにエラーが表示される</li> <li>• サービスの取得中に問題が発生する</li> <li>• 集約が表示されない</li> <li>• ACLリストに属するグループが表示されない</li> <li>• カタログアプリケーションを開く際に、デフォルト言語を保存するように何度も求められる</li> </ul>
原因	構成の問題です。
回避方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. IdMが使用している/opt/hp/propel/idm-service/idm-service.war/WEB-INF/jetty.xmlを変更します。requestHeaderSizeとresponseHeaderSizeを32768に変更します。</li> <li>2. IdMを再起動します。</li> </ol>

**CR QCCR1D227810 - 組織管理者向けのサービスインスタンスリストのUIのパフォーマンス向上**

問題	組織管理者向けのサービスインスタンスUIでグループ化とフィルターを使用すると、ロード速度が低下します。
原因	製品のパフォーマンスです。
回避方法	サービスインスタンスのロードに時間がかかりすぎる場合、HPEではグループ化とフィルターを解除することをお勧めします。

**CR QCCR1D230713 - DP2.20P1: OOがクラスタ化されていない**

問題	Operations Orchestration (OO) が正しく構成されていない場合、分散Propel環境で電子メール通知が動作しません。
原因	構成の誤りです。
回避方法	手動でOOをクラスタ構成にします。

**CR QCCR1D230739 - サポート要求: 添付ファイルのアップロードが失敗し、理由の説明がない。コンポーネントがオーダーと一致しない。**

問題	ユーザーがチケットに添付ファイルを追加しようとする、アップロードが失敗することがあります。
----	---

**CR QCCR1D230739 - サポート要求: 添付ファイルのアップロードが失敗し、理由の説明がない。コンポーネントがオーダーと一致しない。(続き)**

原因	製品の制限です。カタログ構成では、一部のファイルタイプしか使用できません(たとえば、GZ、ZIP、LOGファイルはOOTBでは使用できません)。また、サイズ制限を超えるファイルはアップロードされません。
回避方法	使用可能なファイルタイプとサイズ制限は、/opt/hp/propel/catalog/config.ymlで構成されます。詳細については、『HPE Propel Administration Guide』の「Attachment Size and File Types in HPE Propel」のトピックを参照してください。

**CR QCCR1D230766 - SMA対応のPropelで、KMとユニバーサル添付ファイルが別々の結果として表示される**

問題	HPE PropelがKM SMAと統合されており、ユーザーが検索を実行した場合、KM記事の各添付ファイルが別々の検索結果として表示されます。これに対して、KM Solrでは、KM記事のすべての添付ファイルが、HPE Propelで1つの検索結果として表示されます。
原因	KM SMAソリューションとKM Solrソリューションの設計が異なります。
回避方法	既知の回避方法はありません。

**CR QCCR1D231119 - [オーダーアイテムの詳細] ページに [オーダーの詳細] ページへのリンクがない**

問題	HPE Propelで [オーダーアイテムの詳細] を表示する際に、ナビゲーション階層リンクに [オーダーの詳細] に戻るリンクがありません。
原因	ナビゲーションリンクの欠落です。
回避方法	ユーザーは、ナビゲーション階層リンクまたはユーザーメニューを使用して、オーダーリストに戻ることができます。オーダーを検索して選択することにより、[オーダーの詳細] を表示できます。  ユーザーが [オーダーの詳細] ページから [オーダーアイテムの詳細] に移動した場合、ブラウザの [戻る] ボタンを使用して [オーダーの詳細] にも戻ることができます。

**CR QCCR1D231239 - 2.20P1: サポート要求のリスト: 間欠的なパフォーマンスの問題と、「サポート要求をロードできませんでした」というエラーメッセージ**

問題	HPE Propelデータベース (idmdbやカタログデータベースなど) に大量のデータが含まれる場合、デフラグメンテーションが発生して、パフォーマンスが低下する可能性があります。この状態では、SM要求が同期されるか、多数の新規要求がHPE PropelまたはHPE SMで直接作成された場合、サポート要求のリストを開く際に、間欠的なパフォーマンスの低下が発生する可能性があります。20秒のタイムアウトが経過すると、「サポート要求を開けませんでした」という警告が表示されます。
----	---

**CR QCCR1D231239 - 2.20P1: サポート要求のリスト: 間欠的なパフォーマンスの問題と、「サポート要求をロードできませんでした」というエラーメッセージ (続き)**

原因	VACUUMは、不要なタプルによって占有されているストレージを回収します。PostgreSQLの正常な動作では、更新によって削除または廃棄されたタプルは、物理的にテーブルから削除されるのではなく、VACUUMが実行されるまでそのまま残ります。このため、特に頻繁に更新されるテーブルの場合は、VACUUMを定期的に行う必要があります。
回避方法	<p>この問題を解決するには、システム管理者が、次のコマンドをコマンドラインから定期的に行うか、crontabでスケジュールする必要があります。</p> <pre># sudo -u postgres psql catalog -c "vacuum analyze"</pre> <p>この例では、カタログDBが分析されて改良されますが、同じことを他のHPE Propelデータベースに対しても実行できます。次のコマンドによって、HPE Propelサーバー上の利用可能なデータベースのリストを取得します。</p> <pre># sudo -u postgres psql -c "select datname from pg_database where datistemplate=false"</pre> <p>詳細については、<a href="https://www.postgresql.org/docs/9.5/static/sql-vacuum.html">https://www.postgresql.org/docs/9.5/static/sql-vacuum.html</a>を参照してください。</p>

## よくある質問

### [ショップ] ビューと [人気のあるサービス] ビューで検索結果が異なる

質問	[ショップ] ビューと [カタログの参照] ビューの検索結果が、[人気のあるサービス] ビューの検索結果と異なるのはなぜですか。
回答	[ショップ] および [カタログの参照] ビューの検索機能は、検索テキスト内の任意の単語の一致を検索し、アイテムにリンクされた添付ファイルも検索します。[人気のあるサービス] ビューの検索機能は、テキストの完全一致を検索し、添付ファイルは検索しません。

### エンドポイントシステムからの一部のメッセージやテキスト文字列が英語のみで表示される

質問	エンドポイントシステム (HPE Service Manager、HPE CSAなど) からの一部のメッセージやテキスト文字列が英語のみで表示されるのはなぜですか。
回答	理由としては、HPE Propelで設定されている言語がエンドポイントシステムでサポートされていないか、エンドポイントシステムのローカライズに不具合があることが考えられます。HPE Propel 2.20.p1では、次のような例があります。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. HPE Propelの [サポートの要求] のUI (HPE SMIによって提供されるもの) の [通知方法] および [緊急度] ドロップダウンリストの文字列は、翻訳されておらず、英語のみで表示されます。</li> <li>2. HPE SMIによって提供されるオーダーステータス文字列の一部は、翻訳されていない場合があります。たとえば、サポートチケットをクローズする際に、"Closed" という単語は英語のみで表示されます。</li> <li>3. HPE Propelの添付ファイルに英語以外のファイル名が付いている場合、HPE SMでは正しく表示されない可能性があります。たとえば、HPE SMの [インタラクション] のUIに入力された英語以外のファイル名は、HPE Propelの [サポートの要求] のUIでは正しく表示されない可能性があります。</li> </ol>

### HPE SMでローカライズされたカタログアイテムを更新する際のエラー

質問	HPE SMの「ローカライズされたカタログアイテム」機能を通じてローカライズされたカタログアイテムを更新する際のエラーは、どのように解決すればよいですか。
回答	HPE SMでこのタイプのエラーが発生した場合、更新はHPE Propelカタログに集約されません。HPE SMの「カタログアイテムの管理」機能によるカタログアイテムの更新は、エラーなしに動作します。

## ドキュメントのフィードバックの送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

### Feedback on リリースノート (Propel 2.20.p1)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、Propel\_IE@hpe.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

